

陸前高田市高田地区民生委員児童委員協議会

(平成 25 年 10 月 25 日掲載記事)

(1) 高田地区の被害

東日本大震災により、陸前高田市では住宅等約 3,900 棟が流出、死者 1,556 名、行方不明者 216 名の犠牲者がでました (2013 年 7 月 31 日現在)。

市の中心である高田町は、住宅 2,300 棟の約 8 割が流出し、死者および行方不明者は合わせて 1,000 名になります (市全体の 3 分の 2)。高田地区民児協では、委員 16 名のうち 7 名が死亡。自宅の建物が残ったのは 3 名だけでした。

(2) 地区会長として一斉改選に思うこと

2011 年 10 月中旬、市役所より亡くなった委員 7 名の後任者について 11 月末までに選任してほしい旨依頼がありました。通常ならばともに人選を行なっている高田町コミュニティ組織および町内会が震災により解散し、地区会長である私がひとりで人選しなければなりません。そこで相談したのは、各仮設の自治会長および信頼のおける同級生でした。人口流出や高齢化による課題もあり、地域のバランスと信頼を考慮することは大変だったものの、丸 1 か月を費やし、何とか選任ができました。

今年の一斉改選にあたり、16 名の人選をするよう依頼がありました。病気や 75 歳定年、その他辞任したいという方 8 名が退任予定でしたが、7 名の補選から 2 年も経過しないうちに 8 名を人選することは不可能と思い、定例会において、会長である私も定年であるが、自ら向こう 3 年頑張るので、病気の 2 名以外は協力してほしいと要請しました。

2013 年 5 月末、やっと高田町コミュニティが立ち上がりましたが、私自身、どこにどんな人が住んでいるかわからない状況で、人選などできません。人選依頼があった日からさっそく頼んでみましたが、様々な理由をつけて固辞され続けました。11 名に交渉し、6 月末にやっと 2 名が決まりました。民生委員を選ぶのにこんなに苦労するとは思いませんでした。

本来民生委員の人選は誰が行なうものなのか、民生委員が次期の民生委員の候補者を探すのは不条理に思います。社会福祉協議会、町内のコミュニティ、または市役所が人選するのか等について確たる規定があるわけではないように思います。動いてくれる団体が機能していないと、民生委員制度が引き継いでいけない状態になってしまいます。今後に向け、根本的な対策を考える時代にきているのではないのでしょうか。



いきいきライフの様子



定例会の様子